

大和高原の磐座(巨石)伝承(2)

植村勝彌

磐座は古代人の聖地、いや神とともに遊んだ所であったかもしれない。都(ミヤコ)の語源となる祭りごとを行った場所であった。磐座の付近からは祭器や奉納品が出土するのは古墳時代から平安時代という。

大和高原の場合は発掘調査が行われていないので、三輪山麓のように明確な証明は出来ないが、古代人の磐座信仰の場所であったと思われるところが多く伝わっている。その地が神社の成立とともに神社となる場合もあれば、社を作るとき人々の参拝しやすいところに移され、建てられたり、別のものになったり、寺院になったり、雨乞いの場になったりさまざまである。

大和高原には一万二〇〇〇年(七〇〇〇年前)の縄文時代の遺跡が多く発見され、我々が想像する以上に助け合い、懸命に生きていたと思われる。古代人は自然の恵みや願い事は何をよりどころとしていたか、季節を知る目安と恵みは太陽である。また一ヶ月と日は月

の満ち欠けで日どりや予定を立てて生活したと思う。

その生活の中で大事な行事、まつりは重要な催しであった。磐座が祭器土器等出土して証明できるのは古墳時代だが、縄文人や弥生人も集ったところであつてその地を引き継いで、さらに現代まで時代の求める神や仏や行事場内容を変えて引き継いできた。忘れられたり、中世城を築いたとき取り除かれたりしたところもある。現在まで長きに渡り引き継がれた具体的なものは延喜式内社の元社跡や城跡、古代寺院跡の裏山、雨乞い嵩山や雨乞い行事が行われた谷や窟、等である。

その例として一体山がその後どう引き継がれてきたか、私なりに推理してみると(一体山の磐座は前回会報に写真で紹介)、山の北中腹(小字山口)に養父(ヤギウ)山口神社として山頂を拝する形で農耕の水(雨)、風の神として祀られた。祈年祭制度(六七五年)がはじまると、朝廷の奉幣を受ける神となっている。さらに社を巨石をこ

神体とする立磐神社のある集落中央の杜に祭り移されている。これは朝廷の崇拜厚く、特に雨乞いの神として延喜式内大社に記載されているし、祈雨(アマゴイ)神祭り八十五座の一つとして、早魃の年に祈禱された重要な神となっている。(当社に伝わる県無形民俗文化財指定の太鼓踊りは、雨乞い祈願として県下で多く行われていたが、貴重なものである)



写真：一体山山頂役の行者像

さて、磐座の山頂はその後どうなったのか。磐座の横に役の行者石像が建てられている。この山に登る雨乞いの嵩山登りは六十余年の昔行われて以来行われていない。雨乞いの嵩山登りとは「火上げ」とも云い、早魃の年、各戸それぞれ松明を持って、太鼓と鐘を鳴らし「雨たんもれ、雨たんもれや」などを唱えながら登り、決められた場所で「大とんど」をし、般若経を



写真：元宮跡の磐座

合唱し、雨の恵みをお祈りする。ついでながら各村の経堂に大太鼓が吊るしてあって、村の年中行事の集合合図、田の虫送り（虫の祈禱）など常に使用する大事な所有物であった。

大和高原の旧添上郡地区には行者石像を祭っている山が多く、「雨乞いの嵩山を教えて下さい」とお願いすると「行者山の事や」と場所を教えてください。

いつの時代からか流れの変化に即した対応である。役行者の神通力、真言密教の呪術など結びついた山上ヶ岳（大峯山寺）信仰が盛んになり雨乞い願いと共通、集合していった。（今年世界遺産に登録された）

大和には、特に山上ヶ岳（1719.2米）信仰が繁昌し、霊驗な山として崇められ、大和の男子は必ず一度は山上ヶ岳へ登り苦行をしないと一人前の男でないといった風習がある。

また、大峯山寺や吉野の寺の御師が各地を巡りありがたい霊験を説き、行者講を作るよう働きかけ、



写真：山ノ神

山まで案内した。のち、配下の先達といわれる人達が各地に成長し、恒例的な行事となって「六根清浄」を唱えながら登った。少年が困難な行を果たしたことで村で一人前と認められる。こうして行者像が建てられ磐座の山、雨乞いの嵩山が行者山と呼ばれるようになった。南側旧山辺郡から延喜式内社下部（オリベ）神社の元社跡の磐座をとりあげる。この神社は一九〇

七（明治四十）年山辺郡都祁村吐山の氏神社春日神社に合祀された。春日神社は当時中世豪族吐山氏が荘園領主興福寺の神春日社を勧請して村の総社としたもので中世の歴史的背景を知る事が出来る。

元の宮跡は吐山字小川口というところで、現在奈良県立青少年野外活動センター第二サイトが境をなしている笠間川の支流を登っていくと入り口に山神が祀られている。そこから百米余り奥へ入ると式内社下部神社の碑が建っていて、前に小さな鳥居がある。周りは掃除されて桧、杉の林の中なので見とおしも良い。裏山に登ると磐座（写真）がある。近くや裏側にも巨石や石群がごろごろとあり小川は岩石の中を流れている。青少年野外活動センター第二サイトを通りぬけて登って行くと左右両方岩山で、谷間の岩の上を小川が流れ落ちている神秘的な所で身ぶるいする。そこを越えると竜王淵や戒長寺の方へいける。元にもどり右の谷を上ると額井岳（八一六米別名大和富士）へ登れる。山を源とする



写真：下部神社の磐座

源流の入り口、笠間川の源流口に
古代の人達は磐座を信仰したことが
理解できる場所である。
早魃の年に下部神社に雨乞いの
太鼓踊りが奉納されたのは昭和二十
二年のことだったそうで以後ま
だ奉納されていない。(今は民俗芸
能発表等でたびたび上演されてい
るそうだが、後継者問題がこれか
らの課題ですと地元の方のお話だ
った。)
こうした古代の文化を掘りおこ
し永く伝えて行きたい。

イワクラ学会会報